2012

平成 24 年 6 月発行

公益社団法人
日本山岳会千葉支部

J・A・C

千葉支部だより

発行者　篠﨑仁
編集者　結城純一

（第 19 号）

公益社団法人日本山岳会　千葉支部
2012年度通常総会報告　御所塚山山行

2012 年 5 月 19 日（土）午後 2 時半より、京葉銀行文化プラザにおいて 2012 年度通常総会が開催されました。議案の審議に先立ち篠﨑支部長より開会の挨拶がありました。

次に司会担当の諏訪副支部長より、3 月末日で有権会員数 93 名、うち本総会出席者数は 23 名、委任状による出席 44 名、合計出席人数 67 名であり、規約に定める定足数（会員数の三分の一、31 名）を充たし本総会が有効に成立していることを確認しました。その上で、規約第 8 条に基づき篠﨑仁支部長が議長となり各議案を逐次検討しましたが、いずれも原案通り満場一致で可決されました。

総会後の定例の記念講演会は、千葉支部会員の川島由夫氏に「日本 300 名山」と題して、ご自身が昨年度完登した 300 名山について配布された詳細な資料をもとに、お話し戴きました。

300 名山選定の経緯　日本山岳会が当時出版していた「山日記」編集委員会の案に基づき 1978 年に選定された。それ以前 1964 年に深田久弥により 100 名山が選ばれ、1984 年に 200 名山が深田クラブにより選定された。

川島氏が山に興味を持った契機は 24 歳の時に都立高校の教員として生徒達を引率し夏季

施設を利用して白馬岳に登った事が始まりであった。以後は長くどこの登山クラブにも属さず、未組織登山者として山を登ってきた。冬山登山や岩登り等は、指導する学校登山では禁止だったので、独自に日本アルパインガイド協会等の講習会やプロのガイドの指導の下に登山技術を習得した。厳冬期の富士登山、鹿島槍ヶ岳等の単独山行や欧州のモンブラン、マッターホルン、ユングフラウ、デナリ（マッキンリー）、チンボラソ（コトパクシ）等の海外登山での思い出を語り、42 歳で 100 名山を完登、63 歳で 200 名山、68 歳で 300 名山を完登に至るまでの充実した山の個人史を語って戴いた。

殆どが単独での登高であり、様々な危険を独り寡黙なザックの中に忍ばせ、一歩また一歩と登り詰めたすえの偉業であることが氏の精悍な顔、引き締まった体躯から十分に伝わりました。用意の周到さと長期の計画を確実に実行に移す意思の強固さが無ければ達成できないものと深く認識した次第です。

川島氏は、登山の本として日本図書協会推薦の名著『心に山ありて』を上梓、そして音楽にも造詣が深い氏は、文学的音楽案内として『「ハムレット」が好きな人のための音楽』（いずれも新生出版）も上梓されています。現在は 4 冊目の本として登山と音楽、興味を持つ芭蕉の旅と芸術等を織り込んだ著作を考えているとのことで、今から刊行が俟たれるところです。

懇親会は、隣の会場に移り三木副支部長の司会、副会長の吉永英明氏の乾杯で始まりました。挨拶の中で、吉永氏は 4 月 1 日発足の新公益社団法人の認可に係る大事な認可書交付の日に体調を崩し、肺炎の症状を押してやっとの思いで受け取ったとの話を聞き、この間の一連の膨大な時間の作業ならびに許認可省庁との折衝で常にリーダーとして活躍された氏の長年の心身に亘るご苦労を思いました。懇親会では皆さん和気藹々と今まで登られた山やこれから登る予定の山等の話題で多いに盛り上がりました。最後に佐藤明夫氏の中締めの挨拶で楽しい宴は終了しました。

（諏訪吉春）

参加者名（敬称略：順不同）
岩尾富士夫、小沢けい子、川島由夫、鎌倉淑子、黒田正雄、坂上光恵、櫻田直克、佐藤明夫、塩澤厚、篠﨑仁、鈴木美代、諏訪吉春、高田春男、高橋正彦、竹島正義、豊倉さと子、三木雄三、柳下忠義、山口文嗣、結城純一、吉永英明、谷内剛、矢野賢二（以上、会員 23 名）
宇津木仁典、湯下正子（以上、会友 2 名）合計 25 名

御所塚山記念山行（270.93m）

翌20日、支部総会記念山行が行われ、市原市と君津市の境界にある御所塚山へ行ってきました。総会の翌日ということで集まりが心配されましたが20名も集まりました。前日の懇親会と二次会の飲み疲れも何のその平均年齢60才後半？元気いっぱい天気も快晴の絶好の登山日よりでした。登山出発駅はローカル色豊かな小湊鉄道の飯給駅です。ところで何と読むかおわかりですか千葉県に住んでいても読めない人が多いのでは、読めた方は「真の千葉県人」です。駅舎、ホーム、囲いも無い、もちろん駅員もいない無人駅です。駅より舗装道路に出て緩やか登り行き右折すると真高寺があり立ち寄った。真高寺は1453年に建立された曹洞宗の古刹寺です。山門は 1793 年江戸中期に建てられた二重式山門です。彫刻が素晴らしく伊八郎信由の作で見事な彫り物に目をくぎ付けにされます。伊八郎は別名「波の伊八郎」と呼ばれ波を彫ほらしたら右に出る者はないと云われた人物です。山門は昭

和62年に市原市の指定文化財になっています。また山門の天井には龍の絵が描かれ狩野景川作でカラー色の見事な絵です。一見の価値ありの寺でした。正式名は景勝山真高寺です。さて登山は真高寺から県道を横切り直進し新緑が眩しいのどかな道を行きます。やがて右側の山林へと分け入り尾根道と藪道歩きます。この日は気温も高く汗ばむ陽気でしたが尾根道は山林を通るそよ風が心地よい日でした。頂上手前の平坦地で昼食。昼食後は山頂めざし登山開始。間もなく標高 270.93m山頂で到達。見晴はないが赤く塗られた一等三角点の石柱があり、その背後には粗末なブリキ板に山名と標高が書かれていた。来る人もない山頂突然20名もの人でびっくりした様子した。帰路は月崎駅をめざし緩やかな山林を行き展望台へ、名の通り眺望は素晴らしい場所でした。この付近一帯が「市原市民の森」となって市民のハイキングコースとなっています。ほどなくして市民の森管理所と駐車場に到着。駅までは 12～13 分ほどで飯給の隣の月崎駅です。全員無事下山陽気にも恵まれた山行でした。

私事ですが真高寺は櫻田家の菩提寺。リーダーの計らいで立ち寄って頂き献花と焼香も出来たことに感謝いたします。また大勢の参拝で墓場の両親の微笑みも見えました。

（櫻田直克）

千葉支部通常総会あいさつ

支部長　篠﨑　仁

2007 年 6 月 24 日に千葉支部設立総会を開催、このたび満五周年を迎えることができました。これも今日ご出席の皆さまをはじめ支部会員・会友の方々のご支援の賜物であり厚く御礼申しあげます。東京に隣接する初めての支部ということで、準備段階では何かと不安もありましたが、多くの会員の方々に加入していただきそして積極的に支部行事に参加いただくことで今日を迎えることができました。「より楽しいより豊かなJACクラブライフを目指し、新しい出会いの場を作る」を理念として活動を展開して参りました。

主な活動としては、①千葉の山再発見　②房総半島分水嶺踏査　③他支部との交流、特に栃木・茨城両支部とは毎年合同懇談会を開催　④公益活動実施（講演会、映画会）などの活動を実施して参りました。

五周年行事としては、昨年は小笠原諸島で自然観察会を開催しました。来年は海外登山を考えています。私見では、誰でも登れ、そして富士山より高い山をと思っております。

そして、最大の行事は、千葉支部主管で10月20～21日に九十九里で開催する全国支部懇談会です。くわしくは「支部だより」、会報「山」に掲載いたしておりますが、全国から多くの会員が参加します。千葉支部の皆さまにはぜひご参加いただき、そして懇談会の運営にご協力をお願いします。

最後に、これからの千葉支部の新しい展開のために、千葉支部会員・会友の皆さまが支部運営に積極的にご参加くださいますようお願い申し上げます。

ミツバツツジの鹿野山

期　日　　2012年4月14日（土）
参加者　　折田幸一、川嶋弘・芙美子、佐藤明夫、高橋正彦、竹島正義、三木雄三、
　　矢野賢二、山口文嗣　（敬称略）

「どうです。いい眺めでしょう」という案内役、山口さんの言葉を期待していたのだが…。九十九谷展望台からは霧、また霧。そして冷たい雨。

「汽笛一声新橋を…」で始まる鉄道唱歌の3番は「窓より近く品川の　台場も見えて波白く　海の彼方にうすかすむ　山は上総か房州か」だ。品川生まれのわたしは小学校の遠足で、この唱歌の1番と3番を好んで歌ったものだった。歌詞の意味など分からなかったが「テンポの良さ」が好きだった。その歌に登場する「上総の山」が、鹿野山なのだろう。

東山魁夷画伯の「残照」は、鹿野山九十九谷の風景と山梨、群馬の山々の情景を重ねたものだ。古く江戸時代には文人画家の谷文晁が文化元（1804）年に刊行した『日本名山図会』に三浦半島から眺めた鋸山と鹿野山を描いているから、千葉の山はその時代から名山だったのである。

さて、われわれは内房線の佐貫町駅に集合。あいにくの雨で参加者は当初予定者の半分。それでも「晴れてりゃ最高だが、雨の山もいいもんだよ」と高橋さんの言葉にうなずきながら、路線バスに乗った。約30分、春日山バス停で下車。かつて国民宿舎があった跡地から鳥居岬を目指す。サクラ、シャガ、スミレが雨に濡れてしっとり美しい。鳥居岬からの富士山の眺めは、安藤広重も描いているが、人工林が育ち、晴れていても今はどうだろうか。

次は、351㍍の春日峰。ここは国土地理院の測地観測所がある。春日神社の赤い鳥居前には古い石の道標があり、右手を顔に添えた観音さま像と、脇面に刻まれた文字が「きさらず」と読めた。鳥居をくぐり、やぶを突破すると広い丘があり、立派な三角点があった。

鹿野山は、平らな台地状で東西に長い。午前11時45分、東へ歩いて白鳥神社へ着く。裏手から雨で滑りやすい斜面を登ると、379㍍の白鳥峰。ここが鹿野山の最高峰で、千葉では愛宕山に次いで2番目の高さなのだ。信仰の山をしのばせるように、奉納された石碑がたくさんあった。「〇〇」と人名があり、「東京市」と刻まれた石碑もあった。

鹿野山は、この白鳥神社の展望台を境に、南側は急な崖となり落ち込んで、ちょうど魚の骨のように複雑な地形をみせて高宕山系へと続いている。主に、砂と泥の層が隆起してできた千葉の山は、泥の層が雨で浸食され、九十九谷の深い谷になった。この景観は、日本を代表するようなケスタ状地形だが、また別の日に来て見てみよう。

今回は雨の山旅だった。それでも鹿野寺で眺めたしだれ桜、葉より先に咲くミツバツツジの薄紫の花は、この季節を代表するかのようにきれいだった。　　（三木　雄三）

先輩・加藤泰安氏（日本山岳会名誉会員）について

2011年はオーストリア・ハンガリー帝国の武官レルヒ少佐によるスキー術が日本に伝授されて100年となり、ノルウエーのアムンゼンが南極点に到達して100年を迎える。そして私の登山と人生の師である加藤泰安氏の生誕100年の年でもある。

私が泰安さんに最初にお目にかかったのは、大学1年の1954年学習院山桜会の時であった。第1次マナスル隊へ参加して1年後のであった。その会合で「マナスルが登頂出来なかった原因は、日本人であることを忘れた高所用の食料献立にある」と印象深い報告をしたことは忘れない。泰安さんは、集まりの中で一際目立つ長身でスマートな姿で、私は先輩を遠くから見ているだけ、近寄りがたい泰安さんであった。

私が泰安さんと山を登り、スキーをし、酒を飲み、山を語り、ヒマラヤ遠征へ参加し、お嫁さんのお世話にまでなり、今日に至ったのは、1955年12月の鹿島槍の遭難での出会いであった。

1955年泰安さんはAACKカラコルム遠征隊に参加予定であつた。それが交通公社の手違いでパスポートが取れず、直前に参加出来なかった。その年の暮れ無念な気持ちで八丁の湯に逗留していた。鹿島槍の遭難を八丁の湯で聞き、直ちに捜索に参加し、捜索活動の陣頭指揮をしてくれた。

捜索終了後、私達現役部員は泰安さん宅を度々訪れはこれからの山岳部の再建について、

登山について生意気にも意見を交わした。討議の最後に泰安さんから山登りの基本を知らないことを指摘され、本を読んで出直してこいとお叱りを何度も繰り返した。私達部員はこの泰安さんの指導で山岳部が再建されたと記憶している。

捜索活動が終った1956年秋、現役部員と共に泰安宅での酒盛り席で、私は大州の殿様・泰安さんへ恐る恐る「四国・大洲の殿様加藤子爵は北海道洞爺湖畔に農場（別荘）を持っていましたか」とお聞きした。「持っていたよ。それがどうした」との問いに、今その別荘は私の父が戦前購入し、今も持っていますと答えた。泰安さんは急に厳しい顔になり「芳賀のような安物の家へあの別荘が渡ったとは誠に残念である」と無念そうに云った。暫らくの沈黙後何時、誰から、いくらで買ったか調べて報告するように云われた。早速父に問い合わせ、1940年春三井物産・食品部の力石氏から購入したことを伝えると、力石は加藤家の家老であると呟いていた。その事で泰安さんとはより親しくさせていただいた。

泰安さんの伯父である加藤泰治氏は、加藤泰秋氏（大洲藩主　子爵・日本山岳会員）の長男として生まれ、学習院から札幌農学校へ入学した。札幌農学校卒業後米国ミネソタ大学・カナダの大学へ留学して、カナダ女性と結婚した。その後戸籍を北海道虻田郡虻田町字月浦85番地（洞爺湖の農場）へ移している。泰治氏は外人女性との結婚でウインザー公と同じように加藤家の相続を放棄したように聞いていた。帰国後助教授となり更にベルリン大学・ロンドン大学に留学して北大獣医学部創立に貢献し教授となった。

1911年（明治44年）オースリア・ハンガリー帝国レルヒ少佐がスキーを持ってやってきた。レルヒ少佐は、隣国ロシヤの大国を破った日本へスキー持参で偵察（スパイ）に来たとも云われている。彼は、新潟県高田の陸軍連隊で日本最初の本格的なスキー指導を行った。

その2年前に北大のドイツ語教師スイス人ハンス・コーラ氏がスキーを持参して来日していた。コーラ氏は、加藤教授宅に独身時代下宿していた。ドイツ語の授業でスキーの説明をしたり、北大校庭の坂で滑って見せたり、加藤教授の広い庭を馬に引かせてスキーをしたことが記録されている。北大スキー部は、日本のスキー発祥の地は北大であると主張している所以である。

当時有島武郎は北大で教鞭をとっていた。加藤教授は、大正時代に入り有島の農地解放の影響を受けて、20町歩を別荘として残し、80町歩余の加藤農場を開放いた。その農地解放の記念碑は今も洞爺湖畔の月浦に立っている。

私は子供の頃、夏休みは毎年洞爺湖畔の別荘で遊び、戦争中は洞爺湖畔で過ごしていた。四国・大洲出身の老管理人夫妻から加藤殿様は、6尺の長身で馬が好きで乗馬が得意であった等のお話を聞いていた。奥様は毎年外人のお友だちをつれて長期間滞在し、芝生で何時までも会話を楽しんでいた様子を聞きながら育った。 私は小学生の時から加藤殿様の話を耳にして育った。登山の関係で加藤殿様の泰安さんにお会いすることは誠に珍しい出会いであった。

私は、泰安さんから登山の指導ばかりでなく、銀座のバーへ人生勉強のため時々連れていってもらった。そこで大人の会話を楽しんでいる泰安さんのようすが面白く、貴重な経験をさせてもらった。ある時作家の井上　靖と会うので会話を聞いているように云われて銀座へお供した。井上　靖のヒマラヤと登山についての問い合わせに対して、泰安氏はヒマラヤの星は大きくきれいで、その感動を得意げに話された。登山について「山と女房の付き合いについて、山との付き合いの歳月が女房より長く深いので山への比重が大きい。山はライフであり、ホビーではない」との泰安流のユーモア溢れる人生観に井上　靖氏は興味深い表情を示していた。その後も井上　靖氏との会話に同席したことがあった。井上靖の「あした来る人」「氷壁」の文の中に泰安氏の言葉が、随所に文章化されていることを知る体験をした。

1958年桑原武夫隊長の率いるチョゴリサ登山隊へ、泰安氏の推薦で参加することが出来た。キャラバン中は毎日のように隊長の文化講演を聞く機会に恵まれたことに感謝している。この遠征で知識が豊かになり教養が身に付いたと若い隊員の岩坪・高村・平井と共に自我自讃している。遠征時隊長の前で、外国隊へ英語で登山装備ついての説明で語学力不足で恥をかいたり、経済学部で何を学んだかのスピーチで不経済学部の汚名を記したり、食事のマナー悪さ等々の失敗が多々あったことが懐かしく愉快であった。

チョゴリサ登頂成功後泰安さんの計らいで、平井と私は一人のポーターを連れてムスターグタワーの東面を流れるビアンジェ氷河へ偵察に入った。5400mのキャンプからステステサドルへ登りシャクスガム方面を偵察した。更に7170mの無名峯を試登した。頂上直下の50m岩峯まで登ったが登攀道具を持参しなかったので頂上に残念ながら立てなかった。その岩峯の下にケルンを積んで、鹿島槍で遭難した四名の写真を埋めて下山した。

この記録ついて、当時JAC「山岳」編集者の望月 達夫氏から賞賛された。7000m峯は5400mからラッシュアタックが可能であることを日本人として最初に証明したことであった。

泰安さんのお蔭で、チョゴリサ登山は私の人生に自信と勇気そして希望を与えてくれた貴重な経験であった。チョゴリサ登山を通して若い隊員の平井・高村・岩坪らの信頼関係は自然と築き上げられた。泰安さん亡き後もAACKと学習院山桜会との関係は今日も変わらない。

泰安さんは学習院時代に冬の槍・西穂高の初縦走をしている。京大では白頭山遠征・大興安嶺・蒙古等の遠征を経験している。戦後は1953年マナスル第1次隊へ参加を始め、1958年チョゴリサ隊と1962年サルトロカンリ隊では副隊長を務め登頂に成功している。しかし泰安さんは1936年伊藤ゲン氏とインドへK2登山申請のため行くことに決まったが資金不足で渡航できなかった。更に1955年カラコルム探検隊では、パスポートの申請ミスで参加か出来なかった悔しい経験もしている。

1970年JACエベレスト登山隊の隊長は泰安さんになってもらいたかった。これも念願は達成しなかった。その当時私は札幌にいて遠征のお手伝いが出来なかったのが悔やんでいる。そして健康を害していなければ、日本山岳会会長になったと思う。ジョークに溢れ、ウイットに富んだ泰安さんが会長になられたらきっとスケールの大きい且つ楽しい山岳会になったと想像している。

2005年9月鹿島槍遭難50回忌の追悼会を鹿島槍山麓で行った。亡き大鈴、小鈴、清水、藤原の四名へその後の山岳部は泰安先輩の指導の下に活動したことを報告し、冥福を祈った。私は遭難が縁で、泰安さんから今日まで多くの指導の受けることが出来ました。そのお礼を亡き四名のお礼を述べ

た。

1970年私の父は亡くなり、私の力不足で相続税の支払で洞爺湖の別荘は売却された。現在は洞爺町の月浦自然公園として面影を残している。

追伸

1963年4月私は、加藤泰安御夫妻の媒酌で三田幸夫の娘・淳子と結婚した。結婚式には松方三郎氏、披露宴には槇　有恒氏・早川種三氏・佐藤久一郎氏・岡本通氏・舟橋明賢氏等が出席した。昔の慶応山岳部と学習院山岳部との再会を思わせるよう楽しいパーテイであった。しかしその後の慶応と学習院と山岳部の交流はなく、2000年のアルバータ登頂75周年記念で両校は記念登山を楽しんだ。その後冬の光徳小屋の集い、冬の慶応吾妻小屋の集いを開催してスキー登山をして交流を深めた。

1982年6月北大スキー部（日本最初のスキー部）創立70周年記念祝賀会が開催された。三田幸夫が来札中であったので二人で出席した。北大スキー部は、三田幸夫の出席を歓迎してくれた。祝賀会が進むにつれて北大スキー部古参連中が、立山松尾峠で板倉が遭難したのは慶応の槇・三田はスキーが下手なため、スキー上手な板倉がオーバーな活躍をして疲労死したのではないかとの話し出た。

三田幸夫は北大スキー部70周年記念祝賀会で、1920年代のスキーと1972年
札幌オリンピックの比較をスピーチして退席した。板倉の遭難に関して話はしなかった。
帰途大通公園で黄昏こめる手稲山を見上げて三田幸夫は、板倉勝宣が山で愛唱していた魔王をドイツ語で歌った。板倉を思い出しての哀愁をこめた歌声であった。

三田幸夫は、1925年アルバータ登頂後冬の札幌でアルバータ登山報告講演の為アルバータ隊員の岡部長量と共に札幌にやってきている。その日に二人は大酒を飲んで旅館代がなくなった。困り果てた二人は三田の神奈川中学（横浜一中）時代の友人北大林学科講師　館脇氏に依頼して恵迪寮に潜り込んだ。その後も二人はよく酒を飲み続けた。岡部はその後酒で若い命を落とした。
三田は札幌に縁がり91歳で札幌・宮の森で亡くなった。

（芳賀　孝郎）

千葉の山　そして『出会い』

千葉の山に登っていると言うと、「千葉に（登るような）山があるのか」とよく言われます。確かに標高は高くて300㍍級、中には百数十㍍ぐらいの山もありますが、決してばかにはできません。ことわざにも「山、高きが故に尊からず」とある通り、実際に足を踏み入れてみると、なかなか味があるのです。意外に緑が深く、暖かい房総半島特有の植物が生えています。山頂からは太平洋や東京湾が望めるし、天気が良ければその向こうに伊豆大島や三浦半島、富士山も望むことができ、飽きることがありません。一方で、登山道が整備されておらず、尾根道が葉脈のように分かれているので、うっかりすると道に迷ってしまいます。油断ができないのです。確かな登山の知識と経験が問われます。こういう自分は山岳会千葉支部の人たちに付いていっているだけなので、大きなことは言えないのですが。それでも一緒に歩いているだけで、疲れない山道の歩き方、休憩の取り方、水や行動食の補給のタイミング、気温に合わせた服装など、知らず知らずのうちに学んでいることが多く、感謝しています。最近、中高年の登山ブームとともに遭難事故が増えていますが、安全な登山の啓蒙普及は、山岳会にとって今後ますます重要なテーマとなるのではないでしょうか。

この度、2年にわたる千葉勤務を終え東京に戻ることになりましたが、千葉の山、千葉支部の人たちとのお付き合いはこれからも変わらずお願いしたいと思っています。よく考えたら、山はもちろん楽しいのですが、山に登る人との付き合いが楽しかった気がしています。

（共同通信千葉支局長　梶田義弘）

●会友の近況報告

山との出会い　人との出会い

「おい、お姉さん、山に行くか。連れていってやるよ」。初めて誘われたのは8年前。平成16年の10月だった。いつも店に食事をしにきてくれるお客さんだが、食べ終わると地図を広げ、数人で何やら楽しそうにしゃべっていた。ノーネクタイで、どう見ても背広姿の普通のサラリーマンには見えない。地図ばかり広げているから「ダム工事か林業関係者だろう」と勝手に思っていたところ、「この記事、おれが書いたんだ」。そう言うなり、店で購読している千葉日報の1面のコラムを指さした。無論、内容は山のコラム。変な人と思っていたが、新聞記者だったとはと驚いた。「こんな素敵な文章が書ける…」。お酒を飲んで騒いでいる姿からは想像できず（失礼）、そのギャップにびっくり。それが三木さんとの出会いだった。

初めての山は奥高尾の景信山。三木さんを隊長に、主人（写真・井上元）も含め店のスタッフなど6人で出かけた。まもなく夫婦で会友になり、それから、あちこち歩いたが、「雨の山」が印象に残る。秋の三頭山では、紅葉が霧雨に煙っていた。山の冷気はふる里・新潟の空気のように懐かしい。初夏の国師ケ岳はシャクナゲ。花が雨にぬれてしっとりと美しく、岩のコケもみずみずしい。初秋の大菩薩では、石丸峠から狼平を歩いた。雨が上がり、霧が流れて山並みが…。なんてきれいな光景なんだろう。

安心して山を歩けるのもリーダーのおかげだと思っている。「地図が読めなきゃ迷っちゃうぞ」「コンパスの見方もできないのか」と三木隊長の厳しい声が飛ぶ。「何で磁石の針は南北を指すの」「地図はどうして上が北なの」と何も分からないわたしだが、少しづつ、覚えてきた。人の命を預かるリーダーの役割は、本当に大変だ。

山を歩いて、教わることは多い。花の名前もその一つ。妙な名前の花もある。「ブタクサ」とか「イヌフグリ」など序の口。「ヘクソカズラ」とか「ハキダメギク」「ジゴクノカマノフタ」ときては、人間なら怒りを通り越してしまうだろう。

そんな楽しい山歩きがご縁となり、毎月第4水曜日に山岳会千葉支部の千葉サテライトの集まりが、私どもの店「美弥和」で開かれている。どれだけ山が、そしてお酒が好きなんだろうという人たちの集まりで、毎月盛り上がっている。

仕事柄、皆さんとご一緒できる機会は少ないが、無理をせず、できるだけ長く山歩きを楽しんでいきたい。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

（井上　京

夏のビールパーティのお誘い

梅雨に入りジメジメとした日が続きますが、8月の暑さを吹き飛ばす企画として、夏ならではのビールパーティを今年も企画しました。今回は今まで 1 度も行事等を実施していない地域での開催と言うことで、東葛地域の商業都市、柏市で実施することになりました。千葉県の中でもかなりはずれの方に位置しており、山歩きをする場所もありませんので、こういう機会がなければ訪れる事がないと言う方も多いのではないでしょうか。まだ、先の日程ですが、是非こうした機会に柏でのビールパーティにご参加いただき、夏の夜空の下で皆さんと楽しく飲み、多いに語り合いませんか。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

日時： 2012 年 8 月 18 日（土） 午後 5 時 30 分～7 時 30 分（但し 9 時まで可能です）
場所： 柏高島屋屋上ビアガーデン（JR、東武柏駅構内より入店）
※　問合せ先　TEL：04-7144-1111　ビアガーデン係
集合場所：JR柏駅中央改札口出て左側に進み「東武トラベル」周辺
東武柏駅中央改札口出て正面に進み「東武トラベル」周辺
会費と料理：4,000 円(冷酒など一部を除いた全ての飲み物、ソフトドリンクも含め飲み放題、オードブル付)
注意事項　①キャンセルの場合：開催当日の午後 2 時までに連絡がない場合はキャンセル料がかかってしまいますので必ず連絡下さい。
②屋根のない屋上ですので以下の点が発生しますのでご了承下さい。
雨の場合：屋根がないので、前もって雨の場合は中止のこともあり得ます。
申込の際、必ず連絡可能な電話番号をお知らせ下さい。
途中で雨になった場合：開始時間より 30 分以内の場合は無料
開始時間より 30 分～1 時間以内の場合はオードブル料にのみ支払う
開始時間より 1 時間以上の場合は全額支払う
強風や雨のため開始時間の変更が発生する場合もあります。
申　込　先：　豊倉さと子

申込締切　：　2012 年 8 月 10 日(金)

東丹沢と西丹沢を分ける「くぬぎ山」

（くぬぎ山山頂より富士山遠望）

9月の山行は丹沢・くぬぎ山です。大倉集落から後沢乗越をつめ、キレットになった痩せ尾根を鍋割山方面とは正反対に南下します。大きなピークの「栗ノ木洞」を越えると、相模湾、渋沢丘陵の展望に恵まれたカヤトが広がる「くぬぎ山」の頂上です。お茶畑の中を歩き、桃源郷のような「寄（やどろぎ）」集落に下山します。

期　日　2012年9月8日（土）
参　加　参加希望者は8月31日（金）までに下記担当者まで申し込んで下さい。
予定コース　小田急線新宿～渋沢（バス）～大倉～二股～後沢乗越～くぬぎ山～寄（バス）～新松田～新宿
（徒歩4時間）
●小田急線新宿駅改札口に午前7時15分集合。
●雨の場合は滑って危険な個所があるため、中止。判断して連絡します。
担　当　三木　雄三

全国支部懇談会／笠森ルート下見と協力スタッフ募集のご案内

既にご案内の通り、来る10月20日（土）～21日（日）に全国支部懇談会が千葉支部の担当で、サンライズ九十九里に於いて開催される運びとなりました。

2日目の21日（日）は海岸コースと山コースの二組に別れます。山コースは笠森グリーンルートのハイキングを計画していますが、十数人規模の案内スタッフが必要となり、現在の実行委員のメンバーではどうしても力不足になりそうです。ご都合のつく方は是非ご協力をお願いいたします。

下記要領にて事前下見を計画しますのでご参加下さい。この下見に参加できなくても10月21日にお手伝い頂ける方はご連絡お願いいたします。連絡係やサブリーダー等人手は多いほうが助かります。

また10月21日は海コースを予定される方や、不参加の方でもご都合のつく方は16日の山行だけでもご参加下さい。

下見の主な目的はルート、時間の再確認、危険個所や迷いやすいポイントのチェックと対策です。

期　日　2012年9月16日（日）

参　加　参加希望者は9月6日（木）までに下記担当山口まで申し込んで下さい。詳細をご連絡いたします。

予定コース　茂原駅＝ユートピア笠森～関東ふれあいの道～笠森観音＝茂原駅

歩行時間　約3時間

担　当　山口　文嗣

海外登山のお知らせ

（雪岳山）

（ハルラ山）

（玉山）

（キナバル）

来年度に海外の山を企画します。
手始めに手軽にいける周辺国の山を考えています。韓国、台湾、マレーシアなどで、候補として次のようなところがあります。
韓　国：雪岳山（ソラク山）1708m、ハルラ山　1950m（最高峰・済州島）
台　湾：玉山　3952m（最高峰）
マレーシア：キナバル　4095m（最高峰）
これから皆様の希望を取り入れ、具体化したく思いますので、日数なども含めご意向をおよせください。
担　　当：岩尾　富士夫

●お知らせ

■山岳保険への加入はお済みですか？

ゴールデンウイーク以降、遭難事故が多発しています。ご自分や周りの方々のためにも
各自の山行スタイルに合わせた山岳保険に加入しましょう。
支部では日本山岳協会「山岳共済会」の資料があります。ご希望の方は千葉支部事務局（豊倉）まで。
※なお、この記事は支部での加入を斡旋するものではありません。保険内容のご質問、加入手続き等については日本山岳協会「山岳共済会事務センター」へお尋ね下さい。

資料のご請求
担当　豊倉さと子

日本山岳協会
「山岳共済会事務センター」
月～金　10:00～17:00（土・日・祭日除く）
〒170-0013
東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL：03-5958-3396
FAX：03-5958-3397
E-mail：sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

■支部ジャンパーを作ります

今秋、開催される全国支部懇談会に向けて「支部ジャンパー」を作成します。デザインは以前作成したものと同様のタイプ（黄色地、左胸と背面に JAC のロゴ、フリーサイズ）になる予定です。価格は希望者の人数によって変動しますが、1 着 5000 円以内に収める予定です。

ご希望の方は 7 月 16 日（月・祝）までに谷内へ氏名、連絡先、注文数をご連絡下さい。希望数がまとまり次第、追って詳細をご連絡差し上げます。

担当　谷内　剛

●　編集後記

4月　四水会（千葉のサテライト）に行った。店に入ってビックリ！　IさんとTさんの二人　その後Kさんが来て 4 人。 最近は参加者が少なくなってきていたが　毎月「美弥和」さんで親睦会を開いています。千葉サテライトと言ってはいますが、千葉だけではありません。気軽な気持ちで覗いてみてください。きっと楽しいお酒と話が聞けると思いますよ

（結城純一）